

# オスが出産？ タツノオトシゴ

一夫一婦制で、一生に1匹の相手とだけ交尾

妊娠・出産は女だけの特権？ しかし、この世で例外？と言える生き物がいる。それは海の生物・タツノオトシゴ！魚だが、縦笛のような口、巻き付くしっぽ、奇妙な形をし、泳ぎが得意でない……上下に動いたり動作は緩慢…これ魚？タイやマグロの仲間の魚だが、その外観は一般の魚の概念とはかけ離れた不思議な生き物…

更に「タツノオトシゴ」はオスが妊娠と出産をする唯一の生き物、珍しい魚で興味が沸く。

野生のタツノオトシゴの寿命は1年から5年ほど。しかし残念なことに、この神秘的な生き物の数は減ってきている。

干支の中で唯一実在しない架空の動物「竜・タツ」。タツノオトシゴの「タツ」は、想像上の動物である竜のこと。「オトシゴ」は「落とし子」で、身分の高い人が正妻でない女性に産ませた子のこと。全体の形が竜に似ているが、その正式な子とは思えないという意味から、この名がある(由来・語源辞典より)。

英語でタツノオトシゴは「seahorse (シーホース)」と呼ばれている。学名は「hippocampus (ヒッポカムポス)」ギリシャ神話に登場する上半身が「馬」で下半身が「魚」の怪物の名前に由来する。



オスの育児嚢から飛び出してくるタツノオトシゴの稚魚  
Photograph by George Grall, National Geographic Creative)

オスが出産、タツノオトシゴの健気な愛の営み  
夫婦は毎朝愛を深め一生を添い遂げる、  
オスが子どもを産む唯一の動物

この幻想的な魚の毎朝の日課は、多くの人間の夫婦にとっても参考になるかもしれない。

## 毎朝夫婦でダンス

夫婦の愛を深めるために、「タツノオトシゴのオスとメスは毎朝一緒に何度もダンスをします」とアマンダ・ピンセント氏は話す。ピンセント氏はカナダ、プリティッシュコロンビア大学の海洋生物学者で、タツノオトシゴを保護する



グループであるプロジェクト・シーホース創始者の1人だ。

タツノオトシゴの夫婦は踊りながら色を変え、ときに尾をからませる。米フロリダ自然史博物館のジョージ・バージェス氏によると、体を固定するためにタツノオトシゴは尾を巻きつけて海草などをつかむという。人間の赤ちゃんが大人の指をつかむような感じらしい。

## 子育てはオスの役目

このダンスによって、お互いの生殖能力も判断する。タツノオトシゴはヨウジウオと同じ科に属し、どちらも「オスが子どもを産むという繁殖戦略」を取るとバージェス氏は話す。(参考記事:「ヨウジウオ、魅力のないメスの子を流産」)

ピンセント氏は、「メスの胴体の下から突き出たペニスのような産卵管を「独創的な梱包装置」と表現する。この産卵管を使って、メスは洋ナシのような形の卵をオスの育児嚢(いくじのう)の中に産みつける。育児嚢の中にはひだがあるため、表面積は見かけよりずっと広く、すべての稚魚を柔らかい組織で抱き込める。(参考記事:「ハイエナの雌に「ペニス」、雌雄どう判別?」)

ピンセント氏は「育児嚢の大きさが大きじ半分ぐらいしかない」細身のオスから1572匹の稚魚が産まれたことを確認している。

オスが自由に動き回る小さな稚魚を出産するころには、メスは「次の卵を準備」しており、すぐにまた交尾を行う。

身ごもるオスは「子どもたちの父親が自分であることを当然わかっています」とピンセント氏。オスがここまで熱心なのはそのためかもしれない。

(ナショナル・ジオグラフィック 2016.06.30)